

目 次

- 05 **Special Reports** 友清 哲
 アレルゲンフリーの洗濯技術を起点に、wash-plusが実現する近未来型のランドリー事業とは
- 12 **46年目を迎えた発明推進協会の知的財産権法判例研究会について** 角田 政芳
- 16 **成長投資で知財戦略を実践し「知財豊国」の実現を** 菊地 修
- 20 **いんふおめ！**
 令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰
 令和8年度「知財功労賞」
- 24 **知財コソコソ噂話** 稲穂 健市
 「著作物」と「著作物でないもの」の間（その1）
- 25 **特許よもやま話** 櫻井 孝
 緑綬褒章と発明について(1)
- 29 **知的財産権判例ニュース** 生田 哲郎、佐野 辰巳
 存続期間の延長登録された特許権の効力範囲が争われた事例
- 32 **知財部さん、いらっしゃ〜い。** 川守田 昂
 発明者の意見をまとめられないのは、意見ではなく「人」を見ているから
- 34 **アセアン知財事情** 内藤 康彰、久木田 俊
 アセアンでの国際知的財産保護フォーラム（IIPPF）の活動について
- 36 **実務からみた知財紛争 ～一実務家の実践と所感～** 三山 峻司
 訴訟では本当のことが勝つとは限らない(1)
- 40 **日本の特許出願が遭遇する欧州の袋小路** 山下 耕一郎、生野 敬明
 物のクレームから製法クレームへの変更補正とPBPクレームの取り扱い
- 44 **地理的表示の活用方法—郷土料理と地酒のペアリングについて** 小野 淳也
- 48 **米国特許取得ストラテジーマニュアル** 山口 洋一郎
 発明の手助けにAIを使用したときの特許性が認められる条件

- 52 企業と商標のウマイ付き合い方談義 友利 昂
証拠を集める気合が足りない人々
- 56 AIは発明者になれるのか 鈴木 健二
—ドイツDABUS決定にみるAI発明者問題—
- 61 世界横断！ 特許制度の旅 明石 尚久、中島 勝、平田 学
クレーム補正の（時期的・内容的）要件
- 68 WIPOの統計報告書(GII2025) WIPO日本事務所
- 69 Q and A Patent 伊東 正樹
費用対効果を踏まえた出願の要否判断
- 70 Q and A Design 石川 皓平
意匠の要部とは
- 71 Q and A Trade Mark 須永 浩子
コンセント制度に関する商標審査基準改訂
- 72 Q and A China 康 泉
特実同日出願に関する審査ルールの改正
- 73 読者プレゼント&アンケート

柳 貞次郎

身近なモチーフにアイデアと遊び心を込めて描くクリエイター。
<https://www.sada-art.com/>

今月の表紙：海を再生する、魚たちの帰る場所



2026年1～12月号の表紙は、20～60年ほど前の本誌記事や全国発明表彰受賞発明等に着想を得て、当時の日本で使われた家電製品、医療機器、農漁具などを描きます。6月号は人工漁礁です。1960年代から全国的に設置が進み世界でも最大級の漁礁整備国家となりました。現在では資源増加だけでなく、生態系保全を図る形に進化しています。